

山形県の古木・名木 No.39

平清水のひいらぎ (ひらしみずのひいらぎ)

山形市大字平清水字恥岸川64-7

平清水久左エ門氏の庭内にあり、ひいらぎは暖かい地方の常緑の小高木で、昔から庭木として広く植えられています。福島県いわき市が自生の北限とされている。

平清水家は、慶長・元和の頃(西暦1610年代)には、山形最上氏の客臣として四千石を賜り、徳川時代には大庄屋をつとめた家柄です。

根周3.5m、高さ約11m、根元で二股に分かれている。樹齢は千年を超えるものと推定されています。

昭和28年2月13日山形県指定天然記念物に指定されている。

(山形県森林協会)

(案内略図)



山形県指定天然記念物
平清水のひいらぎ
昭和二十八年二月十三日指定

ひいらぎは暖かい地方の常緑の小高木で、昔から庭木として広く植えられています。福島県いわき市が自生の北限とされています。山形にこのような老巨木が生育したことは、極めて珍しいことです。

平清水家は、慶長・元和の頃(西暦一六〇年代)には山形最上氏の客臣として四千石を賜り、徳川時代には大庄屋をつとめた家柄です。このひいらぎは、その先祖が境内の庭園として植えられたものと伝えられています。

根周は三・五mあり、根元で二股に分かれています。樹齢は約一・一mで、高さ約十・mを越え、幹は約十mに達し、地面すれすれにまで下っています。

なお、樹齢は千年を超えるものと推定されています。

平成四年三月

山形県教育委員会
山形市教育委員会

【森林やまがた63号(2002年6月)記載】